

役員就任挨拶



支部長就任にあたって 北海道が“日本へ、世界への発信基地”

(社)日本技術士会 理事
(社)日本技術士会 北海道支部長
技術士（総合技術監理部門、応用理学部門）

大島 紀房

この度、青木支部長の後を受け新支部長に選出されました。前支部長の意思をしっかり引き継ぎ、社会への寄与、地域の役割など、技術士に求められる社会の変化に柔軟に対応していく所存です。

「北の国から」。富良野発のテレビドラマが日本全国で大好評の中、22年間の幕を閉じた。北海道の中央、“へそ（臍）の町”から全国に発信したのである。北海道の大自然、とりわけ、時には北海道のマイナスイメージとなる厳しい冬の自然とそれに立ち向かう“五郎一家”の姿が人々の心に焼きついたようである。倉本聡の脚本、田中邦衛や子役の吉岡秀隆を取り囲む配役人、杉田監督、さだまさしのテーマソングなどの素晴らしさに負うところが大きいことは勿論である。富良野、美瑛を中心に観光客が急増している。特に台湾からのツアーは、かつてのカナダから北海道へと台湾ブームをおこしています。旅行中バス、汽車の中で眠ることもなく北海道の自然、田畑などの景色や行き交う動物の姿を歓声を上げながら楽しんでいるそうです。北海道だけで年間11~12万人が訪れ、この3月30日からチャータ便から定期便に変更し集客をはじめました。

“へその町富良野”が全国へ発信したのです。今度は北海道が“日本への、世界への発信基地”となる番である。

今、日本は経済不況の真っ只中にいます。北海道はその象徴と言われますが、北海道こそ、この窮地を真っ先に脱皮できる資源、を備えた地域と考えます。この資源をどう開発し、活用するかです。平成15年度の北海道開発事業として、個性ある地域発展の新重点4分野に①食料基地としての役割強化、②競争力強化のための新産業の育成、③自然との共生

による環境保全、④観光交流、国際交流、人材開発、があげられています。①の食料問題③の環境保全④の観光資源などは言うまでもなく北海道発となりうる“目玉”です。④の新産業の育成はどうだろうか。バイオ、エネルギー、糖鎖工学。まさに私達技術者が北海道発の産業として目指したい分野である。私達技術士会活動として今、何が出来、何をすべきか、を皆でしっかり考えていきたいと思います。

今、クリーンエネルギー・水素燃料の実用化が急速に熱を帯びてきております。第20回「地域産学官と技術士との合同セミナー」で講演戴いた北大の市川勝先生の“水素燃料”の実用化にむけて、私達技術士会も研究会を開いたり、幾度か関係省庁に足を運びました。平成13年度より国の予算がつきはじめ、実用化にむけ研究が進んでいます。学（研究成果）と官（行政）、産（事業化）を結びつけるコーディネート役も私達技術士の役割の一つと考えます。

本号の巻頭言に投稿いただいた西村紳一郎先生を中心とする糖鎖工学「次世代ポストゲノム研究推進構想」が北大北キャンパスを産学官連携のモデル拠点として進められています。これこそ北海道発、世界着となる産業が期待されます。来年の北海道での全国大会（9月15日）には西村先生に絶大なるご協力を戴けるように準備を進めております。産業育成に私達がどう係れるか、技術士の英知を集めて皆で考えていきたいと考えます。

支部長就任にあたり、ここまで大きな組織に育てていただいた先輩諸氏に深く感謝いたすとともに支部、センターの皆様方には新しい執行部へのご支援を宜しくお願いいたします。